マカオ観光局　MACAO SPECIAL ISSUE

マカオ・コタイ地区、新たなIR続々オープン

2016年のマカオへの日本人旅行者数は、前年比6.5％増の30万613人と30万人を超えた。16年の日本人全体の海外渡航者数は5.6％増の1712万人。日本人旅行者数の伸び率では、マカオは海外全体を上回った。2017年は過去最高だった2012年の39万5989人にどこまで迫り、40万人に近づけるか注目される。

そうした中で、マカオは歴史市街地区を中心に世界文化遺産に代表される西洋と東洋が融合する街として独自の魅力を有しているが、一方で、コタイ地区を中心に、世界有数のシティリゾートとして発展を続けている。とくに、昨年はザ・パリジャン・マカオ、ウィン・パレスがオープンし、今年もMGMコタイの開業が予定され、コタイ地区のIRの全貌が見えてきた。

マカオ観光局では、今年のマーケティング方針として、「エンターテイメント」「ファミリー」「食」の３つを主軸に様々な活動を展開している。とくに、マカオに続々とオープンするIR（統合型リゾート）はエンターテイメントに注力しており、マカオは今後エンターテイメント・シティ・リゾートとして、女子旅、カップル、シニア、グループ、そしてファミリーを顧客層として持続的な成長が期待される。コタイ地区を中心に、新しいマカオを紹介する。（取材・文＝本紙編集長・石原義郎、協力：マカオ観光局<http://www.macaotourism.gov.mo>、協力航空会社：マカオ航空<http://www.airmacau.jp>）

「ギャラクシー」2019年頃にホテル開業へ
フェーズ３でMICEとアミューズメント施設

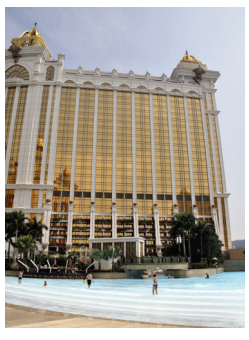
マカオのコタイ地区では、昨年のウィン・パレス、ザ・パリジャン・マカオに続き、今年から来年にかけて、MGMコタイ、モーフィアスホテル、グランド・リスボア・パレスなどがオープンを予定し、IRの充実に注目が集まっている。加えて、ギャラクシーエンターテイメントが2軒のホテルを2019年頃を目途に着工、その後も第３期工事の地盤改良を進めるなど、ファミリー層やMICE需要をターゲットにしたホテルの建設計画が続いていく。マカオ・コタイ地区では、メガIRグループ各社がエンターテイメント・シティ・リゾートの拡充にしのぎを削っている。

ギャラクシー・エンターテイメントは第２期工事のフェーズ2で、2015年に開業したJWマリオット、ザ・リッツカールトンや、ギャラクシー、オークラ、バンヤンツリー、ブロードウェイの6軒のホテルを擁するが、現在、２軒のホテルの建設を進めている。客室数は1300室程度。ギャラクシーブランドのホテルが入居すると見られ、開業は2年後の2019年頃の模様だ。これらのホテルのターゲットはファミリー層で、コタイ地区の他のIRグループと同様に、エンターテイメントを強化していく。

ギャラクシーでは、さらにフェーズ3となる第3期工事の地盤改良工事を進めており、2020年以降に向けて本格的な拡張工事に入る。第3期工事ではコンベンション施設、アミューズメント施設を建設する計画。

ギャラクシーは大型コンベンション施設を建設し、大型国際会議などのMICEの需要取り込みを図る。また、アミューズメント施設は今後の主要なターゲットとなるファミリー層のさらなる獲得を狙う。

ギャラクシーでは、波のプールの「スカイトップ・ウェーブ・プール」、世界最長級の流れるプール「スカイトップ・アドベンチャー・ラピッズ」が人気で、これらを目的に予約する宿泊客も多いという。また、「JW Kids' Club」などの子供向けアクティビティーなどファミリー向けの設備が充実しており、全世代が楽しめる施設を展開する。


スカイトップ・ウェーブ・プール

スカイトップ・アドベンチャー・ラピッズ

日本市場については、2015年にオープンしたJWマリオットの場合、ブッキングは旅行会社経由が多く、同ホテルでは今後も旅行会社とのパートナーシップの拡大を期待している。

「メルコ」来年４月にモーフィアスホテル開業
ハードロックホテルは「ザ・カウントダウン」に

次に、シティ・オブ・ドリームズとスタジオ・シティ・マカオを擁するメルコリゾーツ＆エンターテイメント（MCE）は、昨年までザ・フィフス・タワーと仮称していた故ザハ・ハディド氏がデザインしたホテルの名称を「モーフィアスホテル」に正式決定、2018年4月に開業する。客室数は780室。

MCEはシティ・オブ・ドリームズ内にクラウン・タワーズ、ハードロックホテル、グランド・ハイアット、そしてモーフィアスホテルを揃えることになるが、このほどハードロックホテルをリブランドし、名称を「ザ・カウントダウン」に変更すると発表した。

ザ・カウントダウンの名称の運営は、今年の7月から来年3月末までで、4月のモーフィアスホテルのオープンまでの「カウントダウン」を意味し、ザ・カウントダウンの閉館と同時にモーフィアスホテルを開業する。それだけモーフィアスホテルの開業を盛り上げると同時に、同ホテルへの期待が高いことを意味している。

MCEは、ザ・カウントダウンにはカウントダウンタイマーが設置され、「シティ・オブ・ドリームズが高級リゾートして飛躍する幕開けをリアルタイムで見せると」している。

MCEのローレンス・ホー会長兼CEOは、「IRのあり方を再定義し、シティ・オブ・ドリームズのゲストが今まで味わったことのない最新のIRとして再発進するための秒読みを始める」を自信を示した。

シティ・オブ・ドリームズにはロングランを続ける「ザ・ハウス・オブ・ダンシング・ウォーター」、「ドリームワークス・エクスペリエンス」、スタジオ・シティ・マカオには常設複数シアターの「ザ・ハウス・オブ・マジック」、4Dアトラクションの「バットマン・ダーク・フライト」、８の字型観覧車「ゴールデン・リール」などのエンターテイメント施設が充実しており、ホー会長の語る最新IRとは最大のエンターテイメント・シティ・リゾートへの方向性と見られる。

ゴールデン・リール

ザ・ハウス・オブ・ダンシング・ウォーター

マカオ観光局　MACAO SPECIAL ISSUE

エンターテイメント・シティ・リゾートへ発展

「サンズ」パリジャン開業でファミリー層拡大

水や氷のテーマパークなど家族向け施設充実

サンズ・チャイナはサンズ・コタイ・セントラル地区に、シェラトン・グランド、コンラッド、ホリデイ・イン、セントレジス、ザ・ヴェネチアン・マカオ、フォーシーズンズ、昨年9月に開業したザ・パリジャン・マカオと7軒のホテルを擁する。

約3000室のパリジャンはカテゴリーを敢えて3つ星クラスとし、ファミリー層の充実を図った。また、ヴェネチアンとともに、客室数やコンベンション施設の充実などでMICE需要の拡大への体制を整えた。

パリジャン全3000室の客室の約3分の1から実物の2分の1のエッフェル塔が見える。カテゴリーはスイートルーム、デラックスルーム、エッフェルタワールームに加えて、ファミリールームがあるのが特色。3つ星で料金をリーズナブルに設定して、ファミリー層の拡充を狙う。

パリジャンのエントランスではフレンチ・カンカンやアコーディオン演奏などのパフォーマンスで迎えられ、夜はエッフェル塔のライトショーが行われる。セーヌ川をイメージしたポン・デ・ザール、ショッピングモールの「ショップス・アット・パリジャン」では似顔絵アーティスト、パントマイム芸人、大道芸人などがパフォーマンスを繰り広げる。

パリジャンは、屋内外約2000㎡のキッズプレイエリア「キューブキングダム」を設置した。

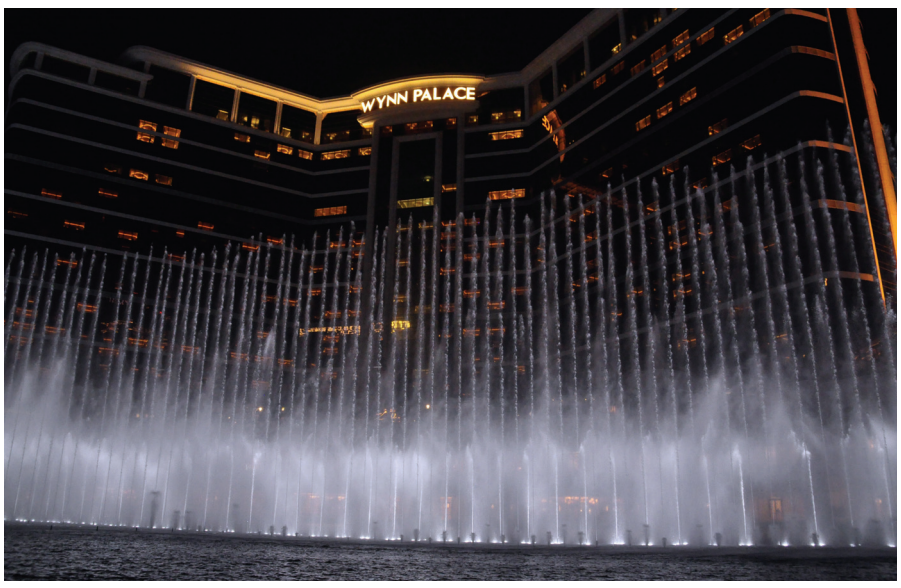
サンズ・チャイナでは、ヴェネチアンで3月から7月9日まで氷のテーマパーク「アイスワールド」をオープン。正式名称は「カンフーパンダ・アドベンチャー・アイスワールド・ウィズ・ザ・ドリームワークス・オールスターズ」。文字通り、ドリームワークスのアニメーション・キャラクターが氷の彫刻となって出迎える。さらには、氷の滑り台などもあり、ファミリー層に人気となっている。

また、サンズコタイシアターでは、3DやLEDエフェクトなどの最新技術を使った「西遊記 チャイナ・ショー」が上演されている。

ファミリールーム

アイスワールド

サンズ・チャイナのMICE施設はコタイ地区だけでなく、マカオでも優位に立つ、パリジャンのオープンで、MICEに加えて、エンターテイメント施設を充実させ、ファミリー層などマスマーケットの需要取り込みを図っていく。



「ウィン」「MGM」「リスボア」がコタイ進出

港珠澳大橋開通契機に、カジノから脱却へ

マカオのコタイ地区では、ウィン・リゾーツが昨年8月にウィン・パレスをオープンし、コタイ地区に進出した。宮殿をイメージしたホテルは28階建ての1706室。3万㎡のパフォーマンス・レイクでは周囲を6人乗りのスカイキャブ（ロープウェイ）が回り、マカオ半島にあるウィン・マカオの4倍規模の噴水ショーが楽しめる。

6人乗りのスカイキャブ

客室数の内訳は、スパ・ヴィラ5室（658～799㎡）、スカイ・ヴィラ4室（364㎡）、サロン・スイート18室（264㎡）、パーラー・スイート198室（136～171㎡）、エグゼクティブ・スイート105室（86㎡）、レイク・スイート540室（85～101㎡）、パレス・ルーム836室（68～77㎡）。

ダイニングは西欧、広東、モダン中華、和食の4軒のレストランと7軒のカジュアルレストランとバー、ラウンジが揃う。

ミーティングスペースは面積2600㎡、ミーティング・ルームは4室で9通りのアレンジが可能。グランド・シアター・ボールルームは面積1700㎡、劇場スタイルのステージもあり、バンケットスタイルで960席の配置が可能。

ショッピングの「ウィン・エスプラネード」は敷地面積1万8500㎡。50軒以上の有名ショップに加えて、ウィン・パレスのオリジナルブランド旅行グッズ「キャリーオン」も出店した。

ホテル内は「花」をモチーフにしているだけに、前衛的なステンレス彫刻「チューリップ」、清王朝時代の花瓶などが展示されている。

チューリップ

今年はMGMチャイナが1500室のMGMコタイをオープン、そして来年にはSJMホールディングスのグランド・リスボア・パレスがオープンする。リスボアにはグランド・リスボア・パレス・ホテル1400室、パラッツォ・ヴェルサーチ290室、カール・ラガーフェルド290室の3軒のホテルが入る。

加えて、年内にはいよいよマカオ、香港、広東省珠海をつなぐ「港珠澳大橋」が開通する。日本からマカオへのアクセスもマカオ国際空港はもとより、香港国際空港からも陸路で乗り入れが可能になる。マカオ国際空港への国際線の乗り入れ拡充も期待される。

マカオの旅行関係者はこれを機に、マカオがカジノ・ゲーミングから、世界遺産とエンターテイメント・シティ・リゾートへと発展することを期待している。

ホテル増、宿泊料金低減で商品造成容易に

マカオ航空が成田・関西・福岡3空港体制

マカオは相次いでホテルが新規開業し、ホテル客室供給量が増加する一方で、急増していた中国からの旅行者が収束に向かっている。このため、ホテルの客室確保が以前と比べて容易になり、しかも宿泊料金は低減傾向にあることから、日本からのツアーが造成しやすくなっている。

2017年現在の操業中のホテルはゲストハウスを除き80軒で、客室数は前年比14％増の3万7211室に達している。このうち5つ星デラックス10軒（5613室）、5つ星24軒（1万7268室）、4つ星17軒（7869室）、3つ星15軒（5392室）と3つ星以上のホテルが8割、客室数では97％と100％近くを占めている。2016年のホテル稼働率は79.8％だった。

こうした好条件を背景に、マカオへの日本人旅行者数は、2017年に入って、1月は前年比で横ばいだったものの、2月は25.9％増、3月は19.2％増で、第1四半期の1-3月は15.4％増の8万5993人と二桁台の伸びを示している。年間40万人を超えた2010年レベルには及ばないものの、37万人を記録した2008年に近い水準で推移している。

こうした拡大基調の要因としては、マカオ航空が東京（成田）、大阪（関西）からの直行便に加えて、昨年3月に福岡線を就航したことが大きく貢献している。ただ、日本－マカオ線は3空港体制になったものの、マカオからの訪日旅行者数は急激に伸びており、直行便の座席供給量が不足している。このため、マカオ観光局では地方空港からの香港便経由マカオの利用もアピールしている。

持続的に成長するマカオ カジノからエンターテイメントへ

マカオはカジノのイメージから、世界遺産の街、そしてエンターテイメント・シティ・リゾートへと成長を続けている。この1年でまた大きく変貌した。行く度に、マカオは「持続的に成長を続けるデスティネーション」を具現化していると実感する。

とくに、マカオの成長の核となるのがコタイ地区だ。昨年のウィン・パレス、ザ・パリジャン・マカオ、今年から来年にMGMコタイ、モーフィアスホテル、グランド・リスボア・パレスなどの開業によりIRがさらに充実する。

コタイ地区には、ギャラクシー・エンターテイメント、メルコ・クラウン・エンターテイメント、サンズ・チャイナ、ウィン・リゾーツ、MGMチャイナ、SJMホールディングスの6つのメガIR各社が来年には揃い、エンターテイメント・シティ・リゾートとして競争を繰り広げる。

マカオ全体のIRのホテル規模は、ギャラクシーが7軒・4271室、メルコが5軒・3185室、サンズ・チャイナが8軒・1万2592室、ウィン・リゾーツが2軒・2720室、MGMが1軒・582室、SJMホールディングスが2軒・1502室。これらに、コタイ地区を中心に建設中の新たなホテルが続々と加わっていく。

その一方で、カジノの総売上は2013年の3608億パタカ（約4兆8750億円）から、2016年には2232億パタカ（約3兆1904億円）と3年間で4割近く減少した。カジノ目的の旅行者は全体の6.6％でごく少数で、しかも毎年減少の一途を辿っている。

これらの6つのIRは、ラスベガスに親会社をもつ企業を含めて、日本のIR開発に大きな関心を寄せており、既に入札参加に名乗りを上げている企業も出ている。

取材したマカオのIR関係者は、カジノは開発への原資となるが、IRの中核はエンターテイメントとMICEであることを異口同音に強調する。マカオのホテル開発もファミリー需要をターゲットの中心に据えていると同時に、MICE需要獲得に向けて大型会議施設などの建設も計画されている。

マカオのIRの方向性はエンターテイメントとMICE。IRという大きな一つの屋根の下に、宿泊施設、レストラン、ショッピングモール、国際会議施設、エンターテイメント施設が揃う。既に、マカオのエンターテイメントの中心はコタイ地区になりつつあるが、数年後には世界遺産の街とともに、エンターテイメント・シティ・リゾートとしてマカオはさらなる成長を遂げるだろう。